

リレーフォーライフ in いわてに参加してきました

去る9月15日～16日と平泉で岩手県では初めてのリレーフォーライフが開催され、当院からは4チームでの参加をしてまいりました。当日は天候に恵まれ(すぎ?)、周辺では稲刈りをしているところもありましたが、秋とは思えない暑さでしたが、熱中症やケガ等もなく無事に終了することができました。ご協力・ご支援いただきありがとうございました。



谷藤先生よりご紹介のありました連携BOX(医療連携ネットワークシステム)については次号で説明いたします。

編集・発行 岩手県立磐井病院 地域医療福祉連携室
〒029-0192 岩手県一関市狐禅寺字大平 17
TEL : 0191-23-3452 FAX : 0191-21-3990 (直通)
HP : <http://www.iwai-hp.com/>

連携いawaii

2012年12月
第3号
岩手県立磐井病院

地域医療福祉連携室長挨拶

岩手県立磐井病院地域医療福祉連携室長
伊藤 靖



「CHANGE と FORWARD」

今年度は、地域医療福祉連携室にとって、大きな変化が2つありました。一つは、今年度の診療報酬同時改定です。改定の重点課題の1つに、「医療と介護の役割分担の明確化と地域における連携体制の強化および在宅医療の充実」が掲げられました。

また、がん医療の推進という点では、がん診療連携の充実目的に「がん診療連携拠点病院加算」や「がん治療連携計画策定料」などが改訂されました。

さらに、周術期における口腔機能の管理等、チーム医療の推進という観点から医科間だけでなく、医科歯科連携の推進にも目が向けられています。団塊の世代が後期高齢者となる2024年を見据え、現在のわが国の医療政策の一つの柱が、地域連携であることが分かります。

もう一つは、加藤博孝新院長就任に伴い、磐井病院行動指針に新たに「地域における病診・病病連携を実践します」という一文が明記されました。「連携強化によって、一関地域の医療を守る」という、院長の決意と思われれます。これらに伴い、現在、連携室では、地域連携の充実のため、いくつかのプロジェクトに取り組んでいます。

退院調整については、昨年12月より外科病棟のみで行っていた退院調整カンファレンスの充実を、4月より全病棟に拡大し、在宅医療の推進や、福祉施設との入院早期から連携に役立てています。

医科歯科連携については、当院の歯科口腔外科に、食道がん患者の術前からの口腔管理を依頼し、術後肺炎の予防に役立てており、また、化学療法中の患者の口腔ケアも依頼しております。今後は、当院の癌患者の口腔機能管理について、一関地域の歯科医院においても連携していけるように、現在、一関歯科医師会との協議を重ねております。

また、かねてから一関医師会の皆様をお願いしておりました、がんの地域連携パスの運用ですが、10月からは、胃癌ならびに大腸癌における術後補助化学療法施行患者についても運用を開始いたしました。今まで以上に多くの患者の皆様が連携パスを利用することとなり、がん医療の均てん化と、かかりつけ医の皆様との共同診療による安心を提供できるものと考えております。

今後とも、地域の皆様との連携強化を目指し、病院一丸となって邁進する所存ですので、よろしく願いいたします。

痔は注射で治す時代到来！！

いままでは、内痔核の患者さんが来院すると、ポステリザンなどの軟膏を肛門から注入していただき、悪化してくると手術(内痔核結紮切除術など)をするというのが通常のコースでした。最近では、内痔核の患者さんには、腰椎麻酔あるいは局所麻酔下にジオンという薬を直接痔に注入するジオン四段階注入法で治療しています。

適応は、脱出する内痔核で、注射を打った次の日に痔があった部分を観察すると、内痔核はほとんど認められなくなり、内痔核でゴルフができなかった患者さんが、ジオンを打った次の日には36ホール回れるようになります。

このジオンという注射薬は、もともと中国で開発された「消痔霊」という薬を改良したもので、硫酸アルミニウムカリウム水和物及びタンニン酸を有効成分とする局所注射用配合剤で、収斂作用、止血作用及び起炎作用を有します。2005年3月に製造販売が開始されました。内痔核に直接注射することにより、血流遮断を介した痔核の縮小、更に無菌性炎症を介した線維化による粘膜、粘膜下層の筋層への癒着を促進して病変組織を硬化退縮させると考えられます。

このジオン薬を使用するに当たっては、四段階注射法という高い技術を要求される注射法が必要となります。使用する医師は四段階注射法の講習を受けることが必須ですが、当院のほとんどの外科医が、この講習を受けております。内痔核の脱出・嵌頓や出血の患者さんがおられましたら、磐井病院の外科に紹介ください。ジオン注射の翌日には、患者さんの喜びの声が聞かれると思います。

副院長 佐藤耕一郎



地域連携班のご紹介

私たちは磐井病院の地域医療福祉連携室の中にある「地域連携班」でございます。地域連携班では事務職員4名と退院調整看護師1名の計5名と予約センターの委託職員で構成されています。

当院は急性期医療を必要としている患者さんを受け入れることがひとつの役割でございますので、患者さんのスムーズな受け入れと、急性期を脱した患者さんに新たな療養の場をスムーズに提供することが地域連携班の大きなミッションになります。

このミッションを遂行するためには地域の医療機関様との円滑な連携が必須でございます。私たちは「お互いの顔の見える地域連携」を目指して、日々の連携業務のみならず、医療関係者の皆様への研修会・講演会のご案内を行うなど、地域の医療機関と当院をつなぐ連携の要として、地域医療のネットワークの充実に努めて参りたいと思っておりますので今後ともよろしくお願いいたします。



連携医療機関のご紹介

谷藤内科医院

谷藤内科医院は5年半前に千厩で開業し、内科、小児科を標榜しております。

院内は近隣にお住まいの老若男女の患者様方が談笑される声や、おもちゃで遊ぶお子様の笑い声でいつもにぎやかです。

開業以来、県立磐井病院には大変お世話になり感謝しております。

当院では小児科が約20%を占めており、重症患者はもとより、診療で疑問に突き当たった時など、いつも相談に乗っていただき感謝しております。入院した場合には、丁寧な返信をいただき大変に勉強になります。

緩和医療科、地域連携室を介し癌の患者さんを紹介したり、逆紹介されることもあります。在宅緩和ケアの末に在宅や施設でお看取りする際には、磐井病院で発行された「在宅ホスピスケアガイドブック」を使い、家族や施設職員に臨死期の覚悟や必要な看護・介護を指導しています。

連携BOXは運用当初より参加しており、迅速に画像等の資料を送っていただき大変助かっております。市井の診療所にありながら、最新の医療機器の恩恵を受けていると実感します。

これからも脳卒中やがん患者の地域連携パスへの参加や、認知症サポート医など県立磐井病院と連携しながら、地域の患者様に寄り添った医療を提供できる「かかりつけ医」を職員一丸となって実現していきたいと思っております。

そして磐井病院地域医療福祉連携室が今後とも一関地区の多職種連携の扇の要として機能してゆくことを期待します。



<谷藤内科医院：内科・小児科>

院長：谷藤正人

住所：一関市千厩町千厩字

町浦 185

TEL：0191-51-3355

診療時間	月	火	水	木	金
午前 9:00~12:00	○	○	○	○	○
午後 14:00~18:00	○	○	○	○	○
休診	土・日・祝日				

